

若者・子育て世代に選ばれるか

第2次鶴岡市総合計画 画見直しの「5つの加速化アクション」に、「①若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」を掲げています。子ども医療費や学校給食費の負担軽減など、市民要求の実現があります。一方、「小中一貫教育」を加えており、普通の小学校に入りたがる小学生から中学校へ、差をなくすと言っています。人生で小学校は一度だけ。小学校と中学校の段差をなくすと言っています。子どもは、地域から出て行かざるをえません。小学生から中学校へ、差をなくすと言っています。人生で小学校は一度だけ。小学校と中学校の段差をなくすと言っています。子どもは、地域から出て行かざるをえません。

第2次鶴岡市総合計画の後期基本計画「5つの加速化アクション」から

「5つの加速化アクション」として位置づける施策・取組例

Table with 3 columns: Acceleration Action, Direction of Policy (Outline Description), and Main Policy/Measure. It details various support measures for childcare, youth employment, and education.

①若者・子育て世代に選ばれるまちづくり

ふるさと賛歌 8

鈴木重雄(八色木)

回想

思えば、鎖国から開放され世界に目を向けた日本が、明治22(1889)年、市町村制施行によって誕生した八栄島村も、昭和29(1954)年12月、合併によって新生藤島町となり、八栄島村は65年間の歴史を閉じた。長いようで短い。その間、日清戦争(明治27~28年)、日露戦争(明治37~38年)、第一次世界大戦(大正3年)、満州事変(昭和6~9年)、日中戦争(昭和12~16年)、太平洋戦争(昭和16年~20年)と続き、原子爆弾投下によって戦争は終わった。まさに戦争の明け暮れであった。この間、太平洋戦争だけで、八栄島村の46人が先陣に散った(藤島町遺族会追悼集)。

昭和29年に大同合併した藤島町も、平成17(2005)年に新鶴岡市となり、52年間の幕を閉じた。戦時、戦後の苦難の時代を乗り越え、現在に至るが、2011年3月11日の東日本大震災と大津波、そして文明がもたらした福島第一原発の事故があった。果たして人々は幸せになったのか、満96歳にして惑う。 八栄島地区には、八色木の一乗院、豊菜の東光院、小中島には地福院と、それぞれ羽黒派天台宗の寺院があった。八色木の一乗院は、羽黒花藏院行派で、延期3(1746)年の記録書には、山号八葉山、寺号一乗院、戸数105軒の寺院で、尊情―清運―清辨―秀英―美尊―穩住の代まで住職を勤める後、神官(一乗院改め半澤内記)となる。 落野目(豊菜)村の東光院は、羽黒不動院行派で、戸数46軒の寺院。古文書によれば、起源不祥であるが、明和2(1765)年に、「寺院大破したが、近年不作のため延々になっていた再建を今年、作柄もよいので檀中相談の上、金子5両を出し、他は三石衛門が施主となって計画し、社奉公へ行き、大修理を願い出て、4月24日供養した」とある。また、諏訪神社境内に文政7(1824)年1月建立の法華経1000部供養塔がある。 小中島の地福院は、羽黒経堂院行派で、戸数39戸の寺院である。起源は一乗院、東光院と同年代と思うが、棟札には宝暦10(1760)年建立とある。飯鉢家文書には、文政2(1819)年7月小中島地福院鉄門雨乞し、八ッ過より大雨降り万民喜ぶとある。(つづく)

早坂清輔著 『東郡電気事業ものがたり』東田川郡電気事業の偉大なる軌跡』再発行

東田川郡電気事業の偉大なる軌跡

東郡電気事業ものがたり

早坂清輔

早坂清輔著『東郡電気事業ものがたり』東田川郡電気事業の偉大なる軌跡』2018年4月発行が9月末、2版として200部再発行されました。

旧東田川郡役所関連施設が3月20日、国指定史跡となったことから、郡政の業績をまとめた本書が再び注目され、早坂氏が増刷しました。

日本に育英会が発足する45年も前に育英事業を

旧東田川郡が、発電事業を郡営で着手したこと。

戦争の国策で電力株式会社（現在の東北電力）に譲渡されたが、戦後は17年間も返還（復元）運動がたたかわれ、叶わなかったこと。

郡営電気事業の利益は住民に還元され、貧困家庭には無料で供給し、育英資金として教育に多くがつき込まれたこと。

日本に育英会が発足する昭和18年（1943）より45年も前に、育英事業を発足させて

いたことは、まさに先駆的なことです。

昔から「藤島は教育の町だ」と言われてきた所以がここにありました。貴重な写真が豊富で、活字が大きく、64頁とコンパクトにまとめられています。お読みになりたい方は、東田川文化記念館か、加藤鉦一までお問い合わせください。



埼玉県深谷市農業委員会（安藤己喜夫会長）の視察研修で、加藤鉦一議員と阿部誠三川町長が歓迎（なの花温泉田田10/10）。2014（平成26）年2月14日の埼玉県の豪雪で、農業ハウスのほとんどが倒壊し、資材不足の中、復旧のために（株）三洋を紹介した縁で、9年後に初めて訪問。

東田川史跡物語 『駐蹕之碑』②

青山 崇



「明治十四年、辛巳（しんみ）干支）年秋八月、車駕（天皇乗物）

で山形・秋田・北海道の北方に出発した。九月二十三日東田川郡に行幸。有栖川熾仁（た

最初の年齢は20歳。明治14年の山形県巡幸である。

秋田湯沢から新庄に入り、最上郡役所に宿泊。翌24日出発、旧清川街道を通り、午前10時15分に東田川郡役所で小休する。

注記2 供奉者 左大臣・有栖川熾仁親王：明治政府の最高行政機関である太政官の実権を持つ左大臣。北白川能久親王：陸軍中佐、師団長、大隈重信：参議。大木喬任：元老院議長、文部など各大



異常気象のせい

今年の夏の異常な暑さ。以後は御免こうむりたいですナ。しかしこの地方での、暑さ寒さも彼岸までは、をキツパリ守ったようので、彼岸明けには寒気が入ったからナ。これも異常だろう。6日に俺はストーブを出した。

あるかどうか、今年は猫が一匹も蛇を捕まえてこなかった。飼ひ猫でない2匹の猫。鼠と蛇を捕まえては、俺に見せたいのか、玄関前に置いておくのだが、今年は蛇を見せなかつたんだ。良い事ナ。

るひと）親王・北白川能久親王及び参議大隈重信・大木喬任（たかとう）が扈從（こじゅう）付き従うした。」

注記1 天皇は各地を行幸し六太巡幸といひ、明治5（1872）年九州・西国、同14年山形・秋田・北海道、同18年山口・広島・岡山までなどである。

▲いつもの年なら345号線・上藤島から大半田までに3〜5羽は見えていた鷹の仲間、ノスリが見えない。彼らと夏の暑さが関係あるのかは知らないが、数百匹の鼠は命をなくさないで済んだ事に。▲そんなことと関係が

臣を務める。政府要人が占め、あたかも移動する政府の感がある。注記3 参議 太政官の次官クラスであるが、大隈は重要決定に参画していた。お詫び 「前号の「駐蹕之碑」①」の文中「山形県行幸記念写真帳」（20、…編者不詳：1947年刊：県図書館感」とあるが、この行幸は昭和天皇で全文削除します。訂正しお詫びします。